

## ■学校経営のポイント

### 校務のICT化で子供と向き合う時間を

小島 宏

現在、学校は、今年度の指導と評価のまとめ、年度末の校務整理、新年度の教育計画及び諸準備に忙殺されている。「多忙感」と表現されるが、そのような感覚的なものではなく「多忙そのもの」である。

しかし、嘆いても多忙な状況は一向に解消しない。もっと合理的に対処しなければ「世界一忙しい教師」という名誉(?)は返上できない。

そこで、校長は、校務のICT化の基本方針を明確に示し、子供と向き合うという教師本来の職務に専念する時間を増やすことが肝要である。

#### 優先順位と見通しを

多忙であるかどうかを問題にする前に、校務の優先順位と見通しをもった処理を考える必要がある。

最優先すべきことは、子供と向き合うこと即ち授業であり、次は授業に係る教材研究・準備などである。そのためには、学級経営(生活規律・学習ルール・人間関係・保護者対応)、特別支援教育、生徒指導なども不可欠である。また、これらを支える校務処理も重要なのだが、こちらを優先しては、子供に質の高い教育を保障することは難しくなる。

#### 校務の重複・無駄を省く

校務は、精神論ではなく物理的な対応なくしては軽減できない。校務の重複、無駄を省くために、徹底した整理統合・廃止・縮小が不可欠である。

特に、校務処理の簡素化、会議・研修の合理化、教育委員会の調査・報告の精選などが求められる。

#### 校務の重複・無駄を省く組織的な取り組み

校務は、教職員それぞれの個業ではなく、組織として同僚との協業にすることが重要である。校務合理化の発想の共有化と実行が必要である。

また、校務を処理する過程のミスが意外に多忙感を増幅させることがある。職員室で、校務処理の仕方やコツを情報交換するなど、叱責より指導を優先

し、その進歩を認め合う教職員集団としたい。

#### ICTの教育活動への活用

電子黒板などICTを積極的に活用して、従来の授業を改善することが大切である。その際、重要なのは、教師の指導法改善にとどまらず、子供の学習活動に活用していくことである。

教材の開発・作成にもICTを活用し、共有化して使い回していくと省力化につながる。指導案や教育情報の収集・活用についても同様である。

また、年間指導計画の作成や教材などは、校内にこだわらず近隣校で共同開発し、それを自校流にアレンジしていくと効率的である。国研の教育情報共有ポータルサイト(CONTET)も活用できる。

#### ICTの事務処理への活用

事務処理にICTを活用する場合には、システムを一元化し、共通ルールでフォルダを構造化し、誰でもデータが使えるようにすることである。特に次の担当者のための資料整理と記録は不可欠である。

#### ICT活用の配慮点

小中学校の教育の基本は、教師の子供に対する教育的愛情と、授業を手作業で進めることである。いかにICTを活用しても、目標・内容と指導原理まで委ねることはできない。

したがって、校務の整理統合とICT活用による効率化には、教育行政は条件整備(ICT機器の整備とシステム構築、調査・書類作成の精選)に、各学校は具体的なシステム活用と実行(子供に直接対峙する授業・相談・人間関係以外はできるだけICT化、簡素化)に今以上に取り組む必要がある。

その際、情報モラル、個人情報の保護、内容の形式化と質の低下防止等に配慮する必要がある。

(こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長)

●小中学校現場発・経営戦略シート 82 選！ 《3月19日発売》

## 「A4・1枚」で学校を動かす 実例シート 82

【編集】渡辺秀貴 B5判・192頁／定価(本体2,200円)＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

